

平成27年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝 2

配付資料

日時：平成28年3月5日（土）

於：設楽町役場議場

◎平成27年度設楽ダム関連発掘調査について

松本 彩（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）

報告1 川向東貝津遺跡の発掘調査

樋上昇（愛知県埋蔵文化財センター）

報告2 大栗遺跡の発掘調査

早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター）

報告3 滝瀬遺跡の発掘調査

早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター）

報告4 笹平遺跡の発掘調査

川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）

 設楽町教育委員会

 国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

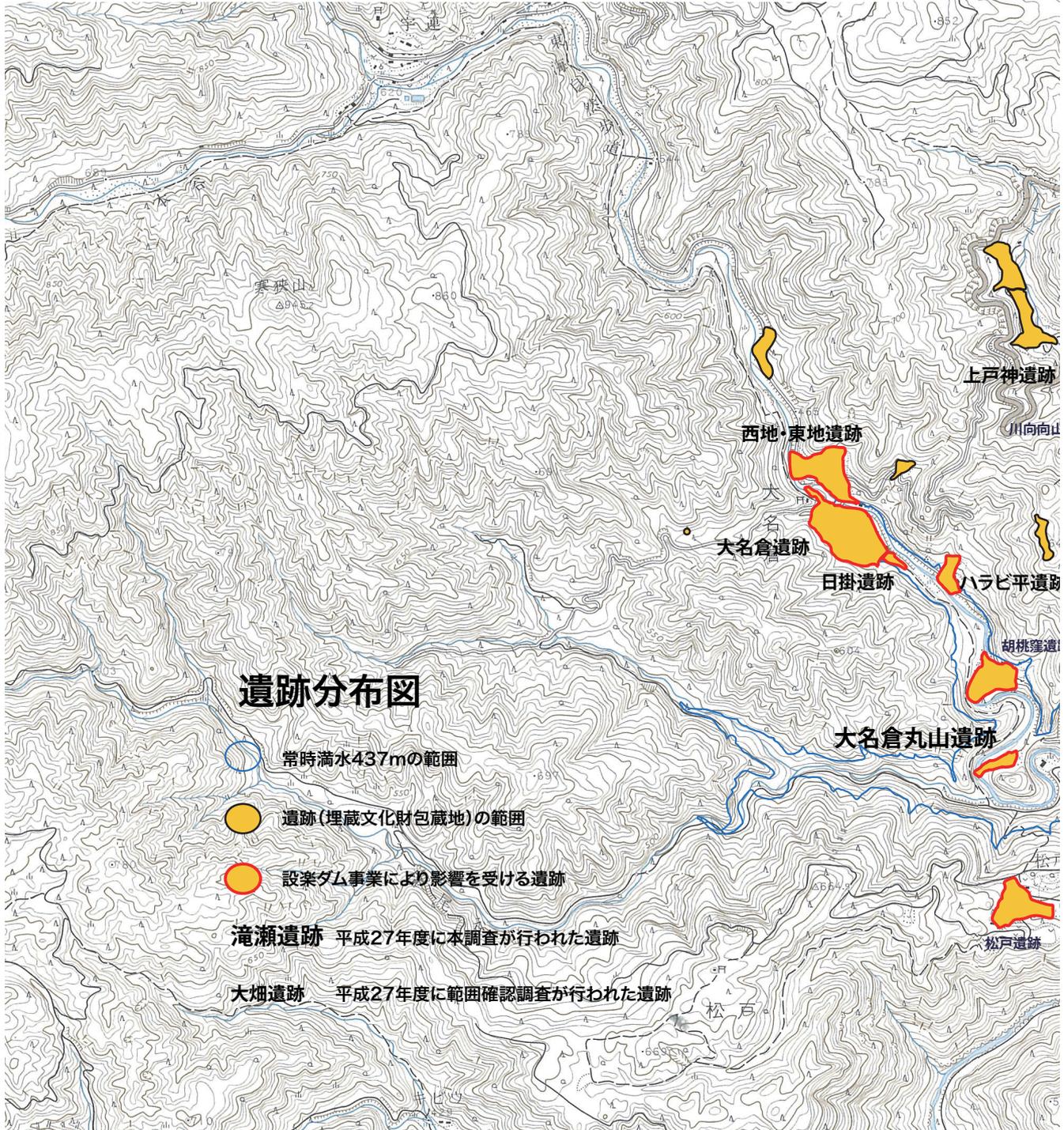
 (公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

 愛知県教育委員会

1.平成27年度 設楽ダム関連発掘調査について

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室 松本 彩

- 1 埋蔵文化財と予備調査
- 2 設楽ダム関連発掘調査



かわむきひがしがいつ

2. 川向東貝津遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 樋上 昇

所在地：北設楽郡設楽町川向字東貝津（北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒）

調査期間：平成27年 5月～11月

調査面積：2,740㎡（15A区・15B区）

調査担当者：樋上 昇・鈴木恵介

立地と環境

川向東貝津遺跡は豊川の支流にあたる境川右岸の河岸段丘上^{かがんだんきゅう}に立地しています。現況は、1950年代に水田であった平坦地に杉が植林されてきました。平成22年度に今回の調査区の北側で発掘調査がおこなわれ、縄文時代後期の埋甕^{うめがめ}と集石土坑^{しゅうせきどこう}などが確認されています。

今年度の調査区は、東から西に向かって下がっていく標高378～374mを測る5段の棚田^{たなだ}の跡で、西から下3段分を15A区、東側2段分を15B区として発掘調査をおこないました。

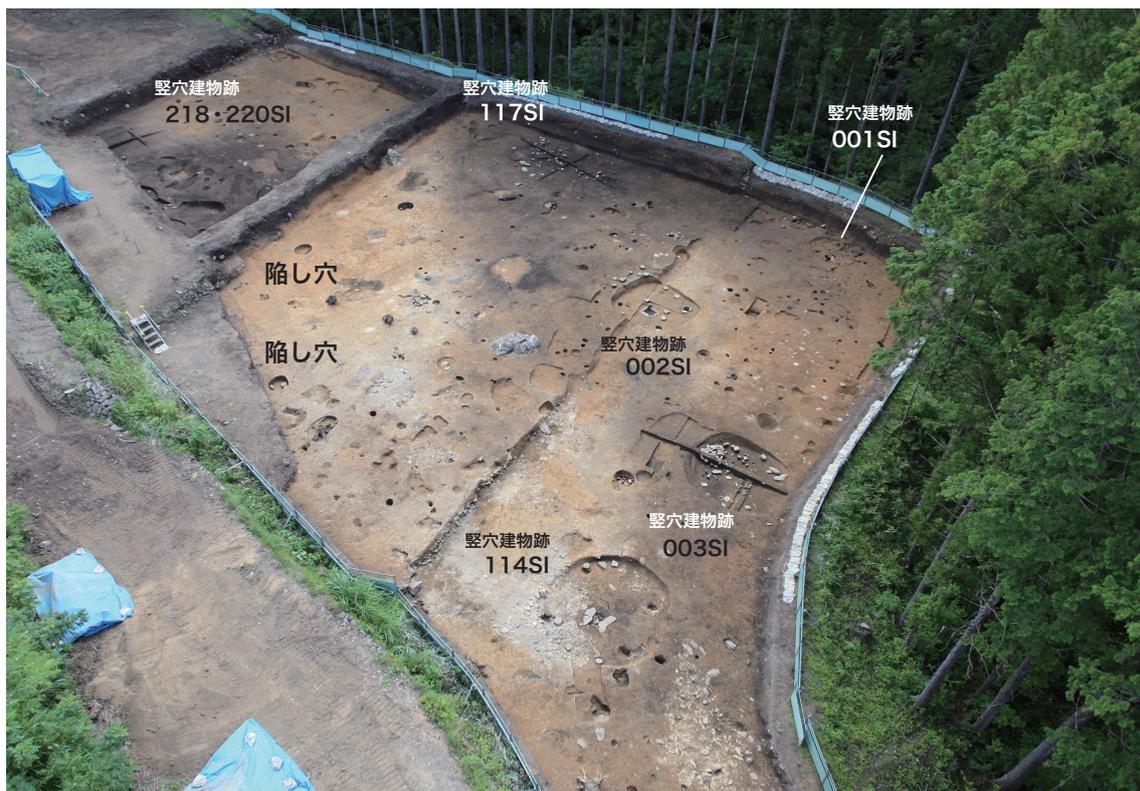
調査の成果

遺構^{いこう}は15A区に集中しています。遺構面は、後期旧石器時代^{こうききゅうせつきじだい}～縄文時代草創期^{じょうもんじだいそうそうき}の下面と、縄文時代中期～後期の上面からなっています。

下面遺構は石器や石材の出土が主体です。遺物の分布状況は、特に15A区のいちばん西側に偏っており、石器を作る際に出る剥片^{はくへん}のほか、木葉形尖頭器^{もくようけいせんとうき}などもみつかっています。この下面遺構については、本年度は3ヶ所の補足トレンチ（補T1～3）と範囲確認調査にとどめて、本格的な発掘調査は来年度におこなう予定です。

上面遺構では、縄文時代中期の堅穴建物跡^{たてあなたてもの}が4棟と、縄文時代後期の堅穴建物跡が3棟、そのほか、屋外炉の可能性のある集石土坑^{どこう}や、陥し穴^{おとあな}などを確認しました。なかでも縄文時代中期の堅穴建物跡からは、遺存状態がきわめて良好な石囲炉^{いしがいろ}や埋甕^{うめがめ}などがみつかっています。

縄文時代後期の堅穴建物跡については、後世の度重なる土石流^{どせきりゅう}の影響や、水田造成などによって深く削られており、遺構の残存状況はあまり良くありませんでした。



15A区全景(北西より)



縦穴建物跡001SI全景(西より)



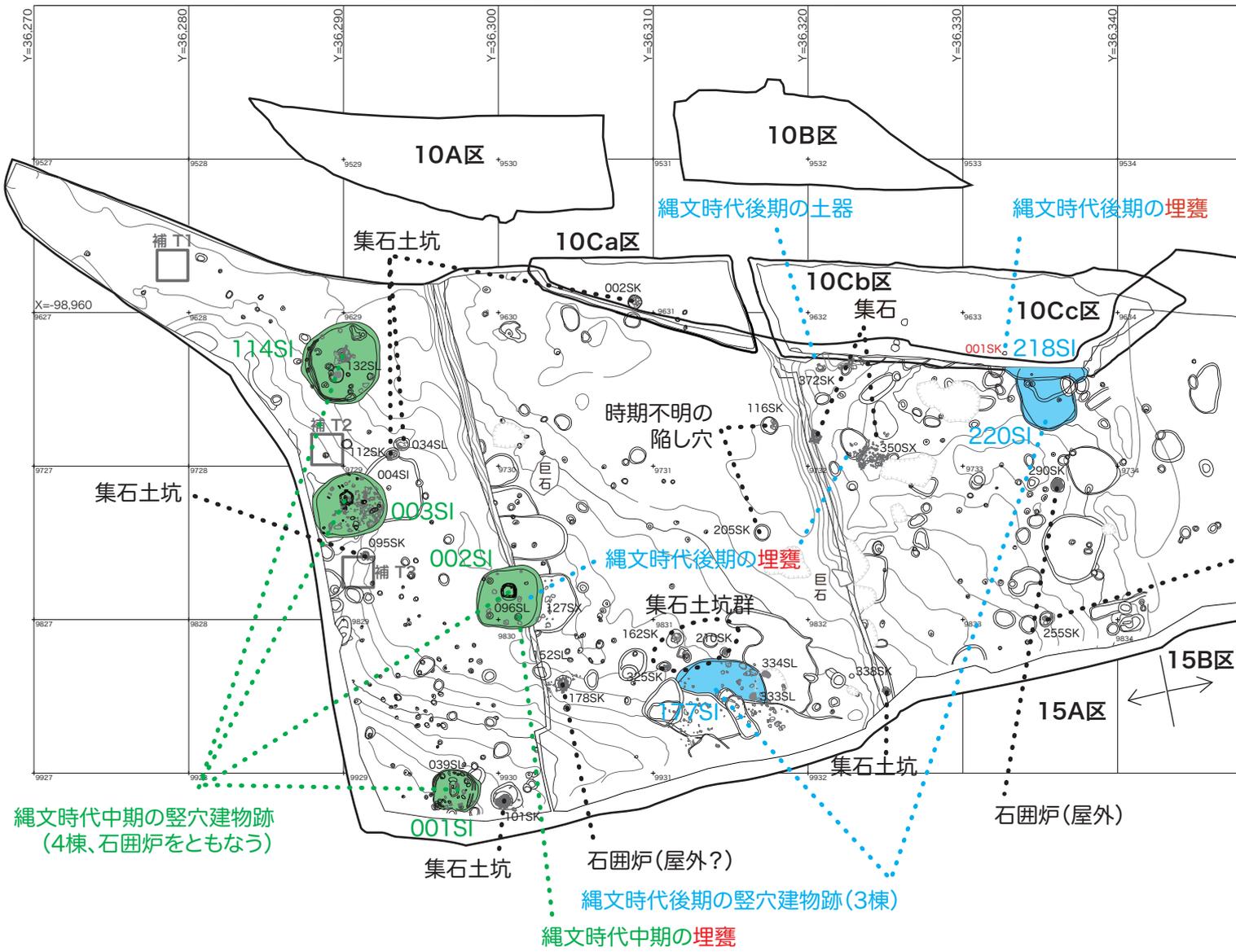
縦穴建物跡002SI全景(西より)



002SI内出土の埋甕(西より)



002SI石囲炉(西より)



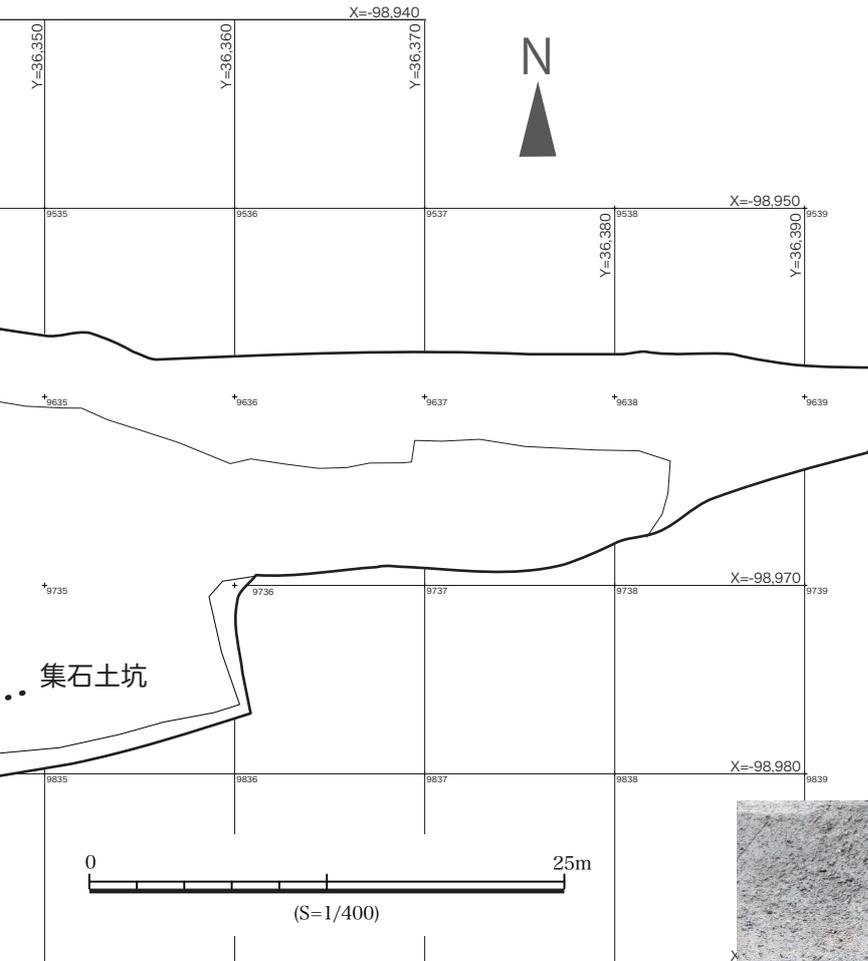
川向東貝津遺跡(15A・15B区) 主要遺構配置図



竪穴建物跡003SI全景(北より)



003SI石囲炉(南より)



木葉形尖頭器出土状況(南より)



縄文時代後期の埋甕(東より)



114SI 石囲炉(北より)



竪穴建物跡114SI 全景(東より)

3. 大栗遺跡の発掘調査

おおぐり

愛知県埋蔵文化財センター 早野 浩二

所在地：北設楽郡設楽町川向字大栗（北緯35度6分40秒 東経137度33分52秒）

調査期間：平成27年7月～9月

調査面積：2,360㎡

調査担当者：樋上 昇・早野浩二

遺跡の立地と発掘調査の概要

- ・戸神川左岸沿いの南西向きの緩斜面に立地
南東の丘陵上に大畑遺跡、国道257号線を挟んだ丘陵斜面に万瀬遺跡
- ・縄文土器・室町期陶器（『北設楽郡史』）
縄文、平安、室町・戦国時代の遺物散布地（『詳細遺跡分布調査報告書』）
- ・平成26年度に範囲確認調査を実施し、包含層、遺構と遺物を確認
- ・平成27年度に2,360㎡の発掘調査（7月2日～9月30日）と範囲確認調査

見つかった遺構

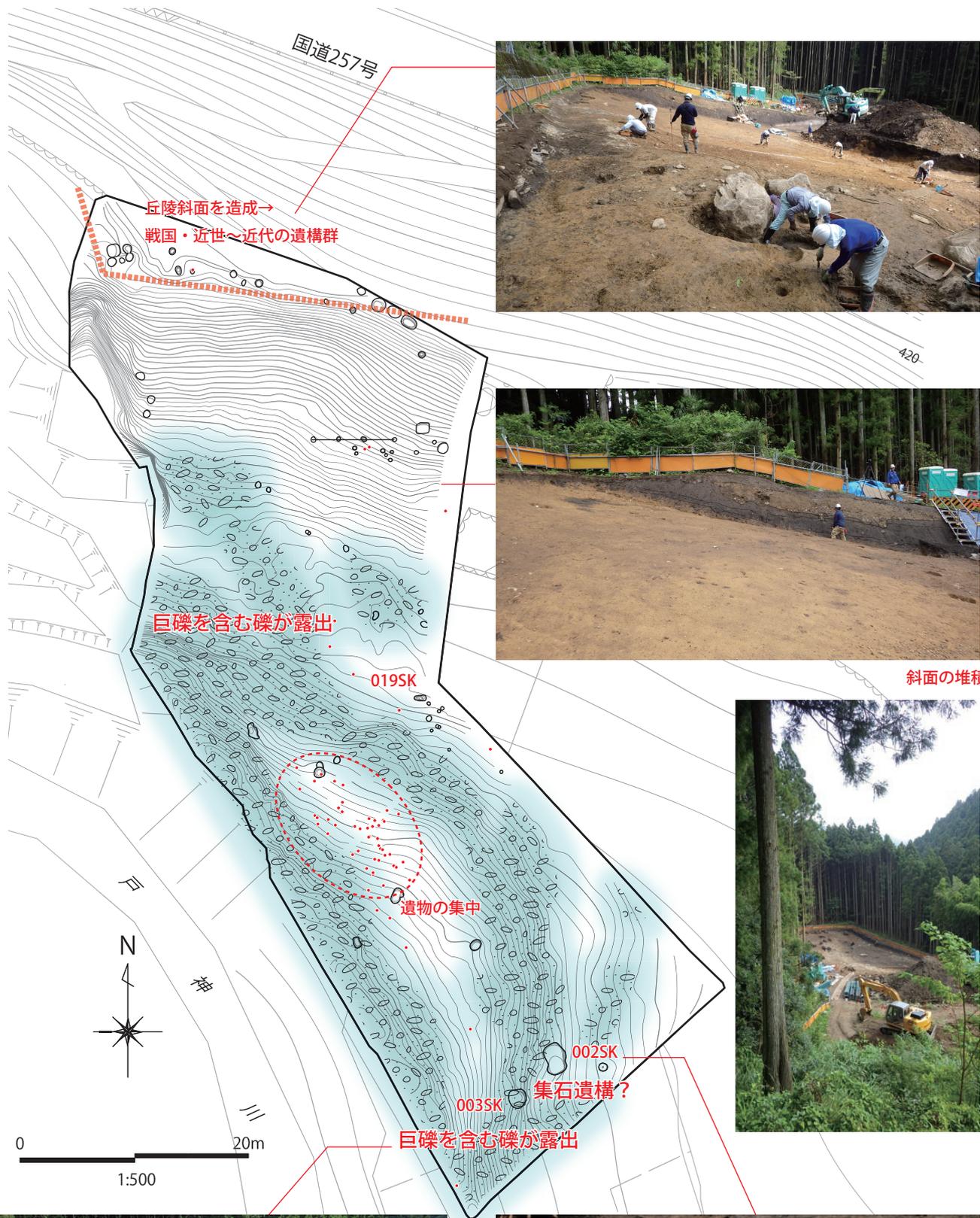
- ・緩斜面に縄文時代の集石遺構、遺物を含む層（広範囲が礫層で覆われる）
- ・丘陵斜面を造成した平坦面に戦国・江戸時代の土坑

見つかった遺物

- ・最も古いものは縄文時代早期（約9,500年前）の土器、多数の石器（剥片）
- ・縄文時代晩期以降の石鏃、弥生時代前期の土器
- ・古墳時代の土師器（欠山式以降）
- ・平安時代の猿投窯産灰釉陶器
- ・室町時代から戦国時代（15・16世紀）の瀬戸・美濃窯産陶器
- ・江戸時代の瀬戸・美濃窯産陶器、木製品（桶・漆器）

まとめ

- ・縄文時代の遺跡が多い設楽町で、各時代の遺物が出土する遺跡は珍しい。



斜面の堆積



4. 滝瀬遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 早野 浩二

所在地：北設楽郡設楽町八橋字タキセ（北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒）

調査期間：平成27年8月～11月

調査面積：1,470㎡

調査担当者：樋上 昇・早野浩二

遺跡の立地と発掘調査の概要

- ・境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地（笹平遺跡の1.5km 上流）
境川と長江川の合流点近く、遺跡には江戸時代の伊那街道が通る
- ・縄文土器・室町期陶器（『北設楽郡史』）
縄文、室町（戦国）時代の遺物散布地（『詳細遺跡分布調査報告書』）
- ・平成19・24・25年度に範囲確認調査を実施し、遺構と遺物を確認
- ・平成27年度に1,470㎡の発掘調査（8月24日～11月27日）

見つかった遺構

- ・調査区のほぼ中央に巨礫を含む礫層が広がる（境川によって作られたもの）
- ・礫層に沿って、縄文時代早期から前期（6,000年前以前）の集石遺構群
- ・縄文時代中期から後期と思われる竪穴建物、縄文時代後期の土坑など

集石遺構群について

- ・集石遺構（集石炉）とは？→“加熱した石を使って蒸し焼き調理をする施設”
- ・可能性のあるものも含めて10基を確認
- ・径1.0～2.0mの円形または楕円形
- ・こぶし程度の大きさの焼けた礫が集められているのが特徴
- ・深い土坑に焼けた礫が詰まり、礫の下に炭の層が広がるもの
（140SL・080SL・120SL下層・050SL・022SK？）
やや小振りな礫が集められたもの、再利用？（120SL上層）
- ・浅い掘り込みなどに礫が集められたもの（150SL・070SL・090SL）
浅い掘り込みを礫で囲み、中央に土器を逆さに埋めたもの（040SL）
- ・040SLを除く集石遺構から遺物は出土していない
同様の遺構は各地の縄文時代早期（約10,000年前から7,000年前）に多い
放射性炭素年代測定（AMS法）の結果に期待！

竪穴建物と土坑

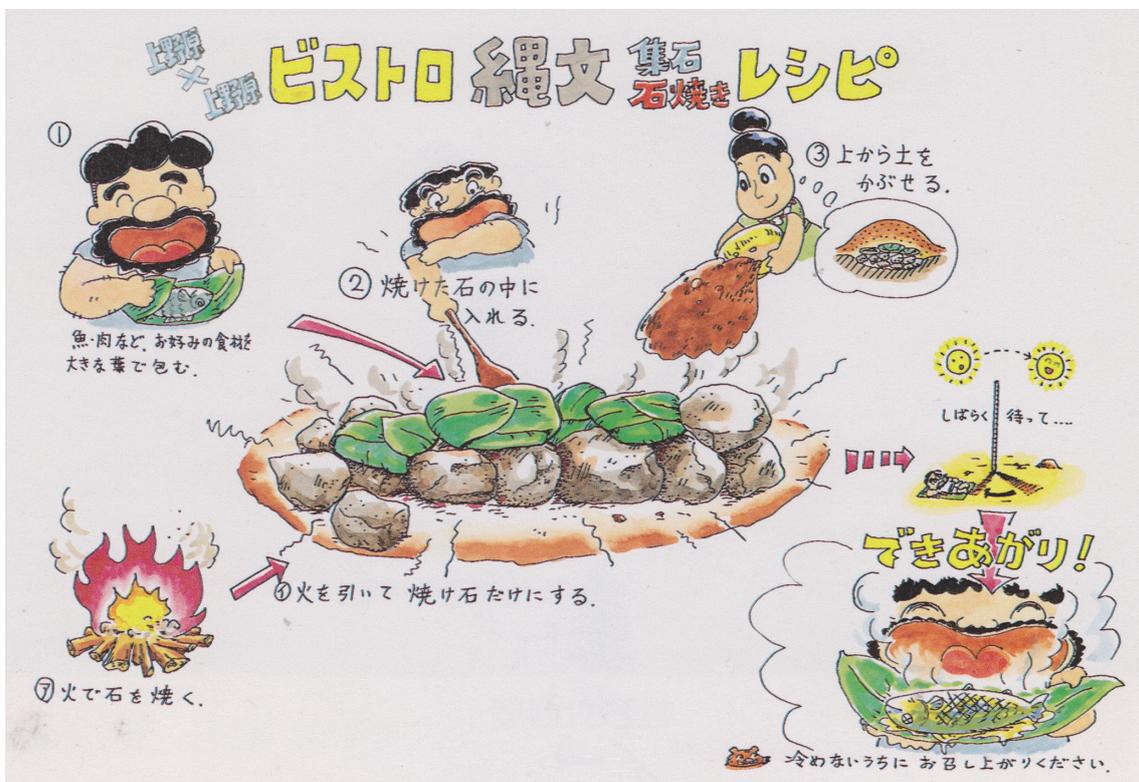
- ・竪穴建物は直径3.0m前後の円形で、中央に石囲炉^{いしがいろ}を設置
遺物は出土していないが、中期から後期？（約5,000年前から4,000年前）
- ・竪穴建物の付近に貯蔵穴^{ちよぞうけつ}と思われる土坑、何度も掘り返し
縄文時代後期（約4,000年前）の深鉢^{ふかぼち}が良好な状態で出土

見つかった遺物

- ・縄文時代後期前葉（約4,000年前）の土器・石器が多い
- ・縄文土器（深鉢^{ちゆうこうどき}・注口土器等）
- ・石器（打製石斧^{だせいせきふ}・磨製石斧^{ませいせきふ}・切目石錘^{きりめせきすい}・礫石錘^{れきせきすい}・石皿^{いしざら}等）
土掘り具として使う打製石斧が多い

まとめ

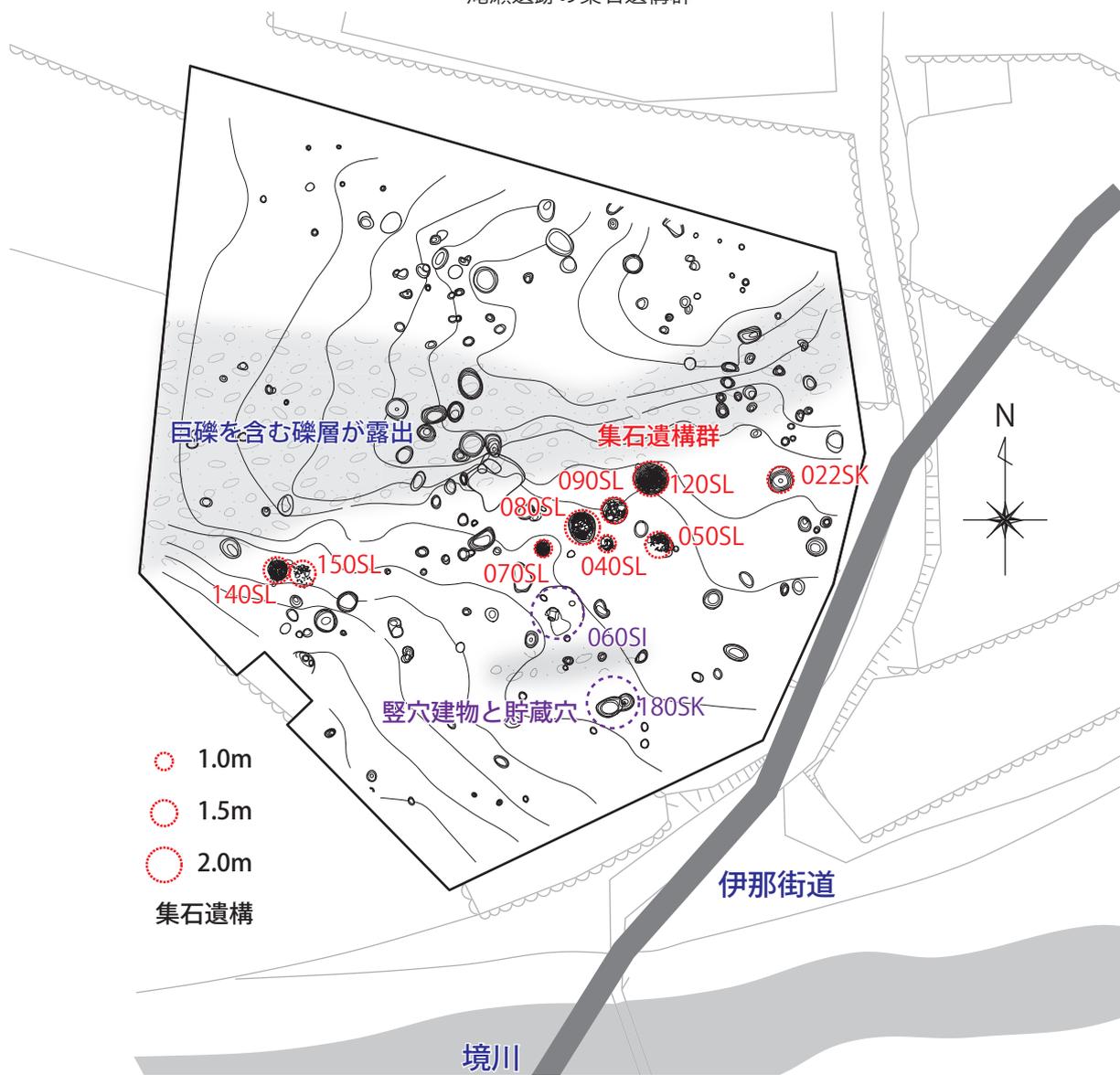
- ・まとまった数の集石遺構を調査、県内では田原市雁合遺跡（11基）に匹敵^{がんごう}
- ・今後、持ち帰った石の大きさ、石材、焼け方等を調べて分析
- ・縄文時代後期前葉を中心とする集落遺跡、周辺の調査に期待大
- ・江戸時代の伊那街道に関係する成果にも期待



集石の使用方法（鹿児島県上野原遺跡現地説明会資料より）



滝瀬遺跡の集石遺構群



滝瀬遺跡 主要遺構配置図(1:400)



080SL平面



080SL断面



120SL下層底面



120SL下層平面



140SL断面



070SL



040SL平面



040SL断面



060SI石囲炉



180SK土器

おおなぐらまるやま
5. 大名倉丸山遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 武部 真木

所在地：北設楽郡設楽町大字松戸字ワカドチ（北緯35度5分59秒 東経137度33分7秒）

調査期間：平成27年10月～11月

調査面積：450㎡

調査担当者：樋上昇・武部真木

立地と環境

大名倉丸山遺跡は、豊川水系寒狭川^{かんさがわ}左岸の標高約400mの河岸段丘上^{かがんだんきゅう}に立地しています。遺跡周辺で流れは大きく蛇行していて、ちょうど川に囲まれた場所にあたります。これまでに愛知県教育委員会による詳細遺跡分布調査と愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査が行われ、鍛冶作業^{かじ}などで発生する鍛冶滓^{かじさい}が見つかっていました。

調査の成果

今回の調査では、小土坑^{どこう}が検出されたほか土器片、金属製品1点と鍛冶滓^{かじさい}が出土しました。付近の大型の礫の一部には人為的な加工痕があり、こうした石材の加工や他の山仕事などに関連して、工具の修繕などが行われていたのかもしれない。



調査区全景 (左手フェンス外下方に寒狭川が流れる)



出土した鍛冶滓

(コラム)

設楽地域の石材(1)

設楽地域にはどんな岩石があるのでしょうか？

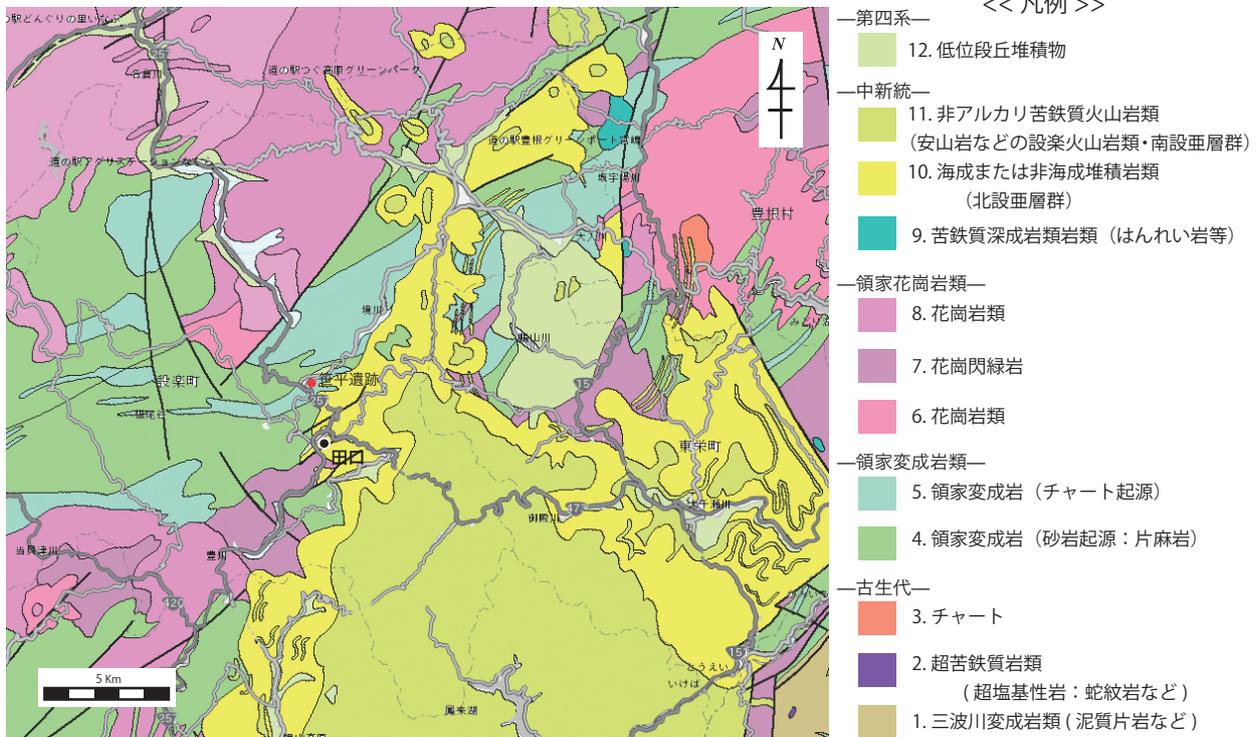
地質図を見てください。地質図とは、その地域がどのような地層から出来ているかを表した地図です。図1(↓)をご覧ください。地質調査によると、田口周辺では、領家変成岩類、領家花崗岩類、中新統、第四系と様々な地質年代の地層が分布しています。

さて、遺跡ではどんな種類の石が使われていたのでしょうか？

現在はまだ調査中なので、詳しいことは不明ですが、いろいろな岩石が使われていたようです。大きなところからみていくと、笹平遺跡で見つかった大きな石棒。よく見ると、白くて粉っぽいところに透明な粒々が見つかります。これは凝灰岩

という火山灰が固まってできた岩石です。この凝灰岩という岩石は、設楽地域では、中新統の岩石の中の南設楽層群に含まれるものです。他には、板状になりやすい片麻岩(領家変成岩類の一種)や安山岩など、近くで入手できる石が多いようです。

また設楽地域では、入手できないと思われる岩石も利用されています。黒曜石や下呂石です。黒曜石は、この地域から一番近い産地でも、長野県の諏訪湖近くの和田峠とされています。下呂石はその名の通り、下呂に産する岩石です。見た目は黒曜石に似ていますが、もう少しザラザラした感じの石です。黒曜石も下呂石も、県内の遺跡では広く見られる岩石なので、ある種のブランド石材のようなものだったようです。(堀木 真美子)



本地質図は、以下のサイトからダウンロードした pdf を元に作成しています。

産総研地質調査総合センター、統合版地質文献データベース (<https://gbank.gsj.jp/geolis/>)、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 2.1 (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>)

6. 笹平遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町大字小松字笹平（北緯35度6分45秒 東経137度34分1秒）

調査期間：平成27年5月～12月

調査面積：6,930㎡（15A区・15B区・15C区）

調査担当者：鈴木正貴・蔭山誠一・川添和暁

立地と環境

遺跡は境川の東側（左岸）、川に対して西に張り出す段丘上^{だんきゅう}に立地しています。川側の低い段丘部分（標高385m前後）をA区、高い段丘部分（標高387m前後）の西側半分をB区、東側半分をC区として調査を行いました。

段丘の地盤形成層^{じばんけいせいそう}は太古の河川堆積層で、砂層と礫層が重なるように堆積しています。特にB区・C区の境にある巨礫群^{きょれき}も過去に河道であった時のもので、この中には、段丘の中央にある巨岩（調査中は「笹平岩」と呼びました）も含まれています。

調査の概要

<A区>

A区は厚さ1mの土石流堆積層^{どせきりゅう}の下に、縄文時代晩期（今から約3,200年前頃）頃の遺物^{ほうがん}を包含する黒褐色シルト層（層厚20cmほど）と土坑・ピットなどの遺構^{いこう}がありました。晩期包含層中^{ほうがんそう}で見つかった礫群^{れき}は円形に並んでいるようにも見えましたが、礫そのものは河川由来の円礫^{えんれき}ではなく、山側由来の角礫^{かくれき}でした。調査区北端から岩偶岩類^{がんぐう がんぼん}が1点、南側では大型で撥形^{ばちがた}の打製石斧^{だせいせきふ}が1点出土しました。晩期包含層の下には厚さ50cm程度の褐色砂層があり、

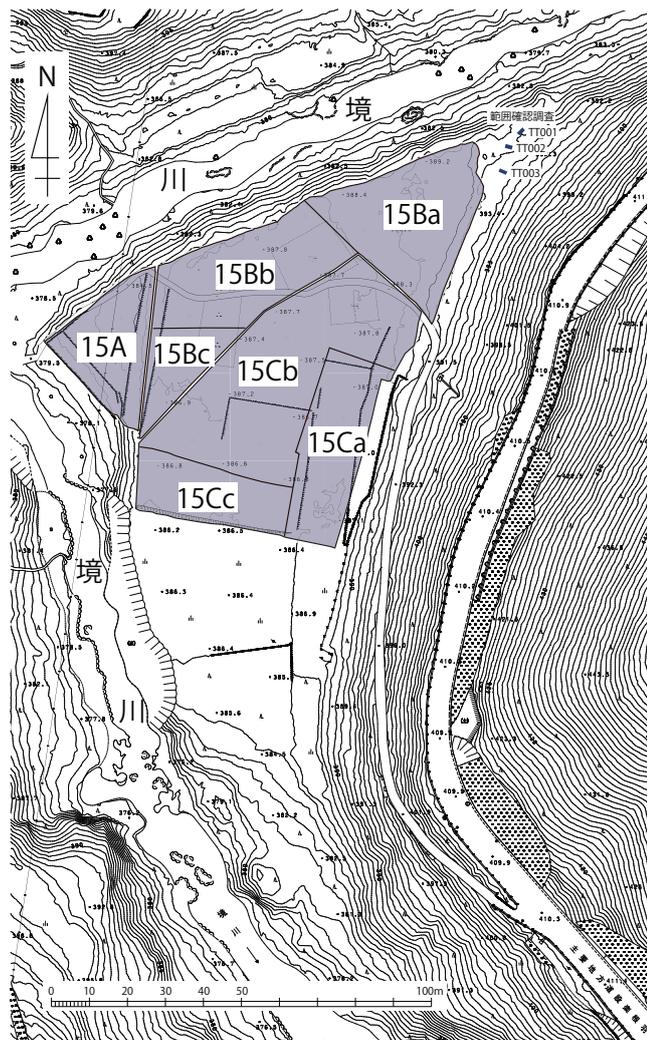


図1 調査区位置図(1:2,000)



笹平遺跡 調査区全景（北より）

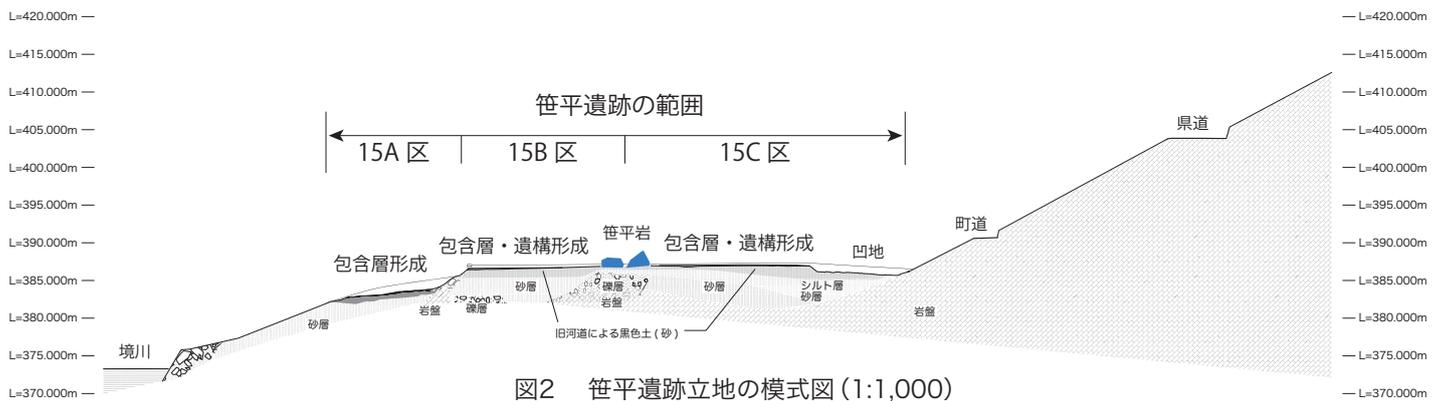
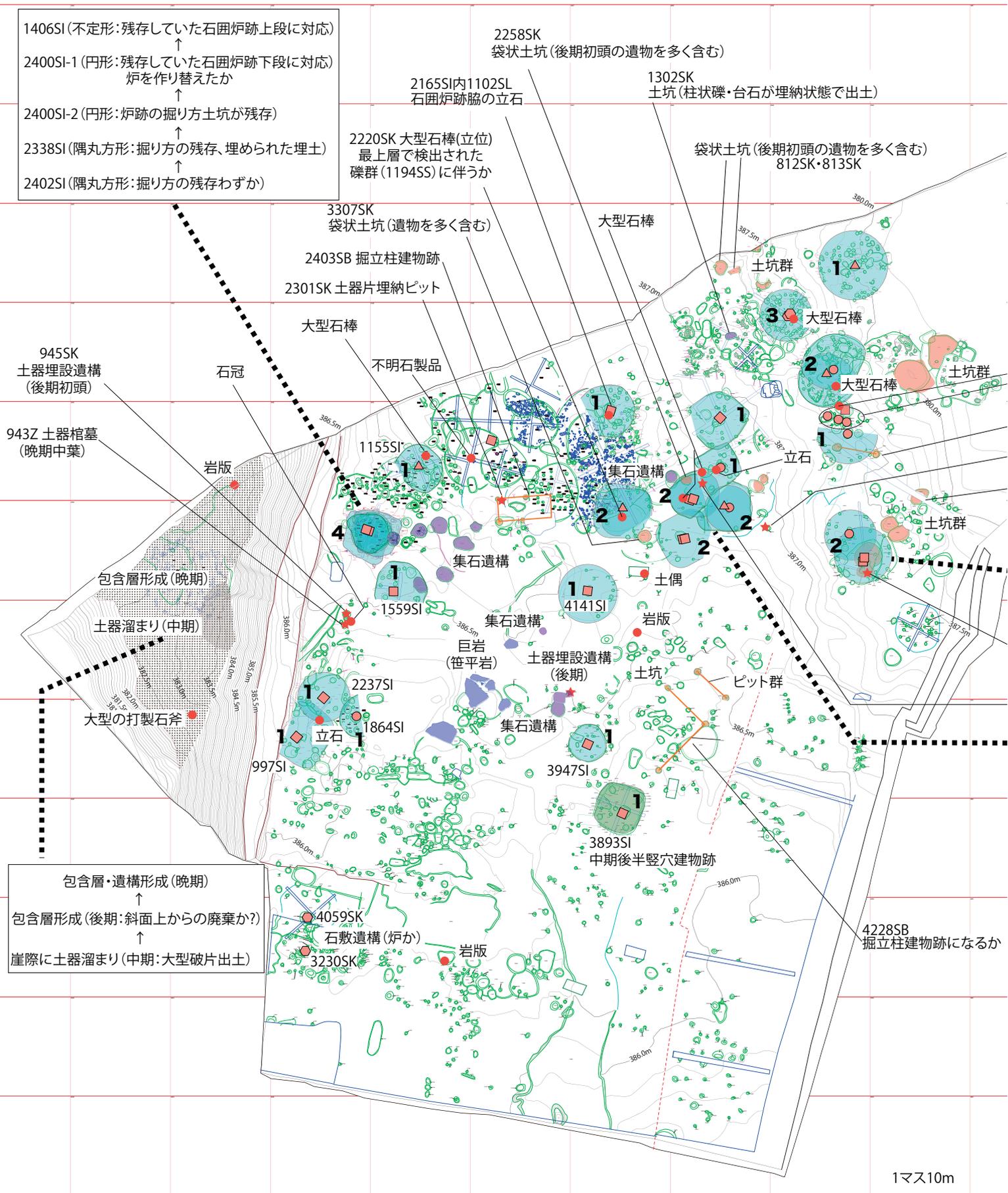


図2 笹平遺跡立地の模式図(1:1,000)

まめつ
 摩滅を受け細片化した縄文時代後期(今から約4,000年前)の土器片が出土しました。さらに褐色砂層の下の15B区側の崖下では、崖際の落ち込みから縄文時代中期後半の土器(今から約5,000年前)の大型破片がまとまって見つかりました。当時の人の投棄による土器溜まり(どきだまり)でしょうか。

<B区・C区>

B区・C区の地形には緩やかな起伏があります。Ba区側が東側の丘陵部からの傾斜で高く、南西のBb区・Bc区に向かって低くなっています。また、Ca区およびCb区南東側は浅い凹地となっており、Cc区は南側に向かって地形が低くなっています。



1406SI (不定形:残存していた石囲炉跡上段に対応)
 ↑
 2400SI-1 (円形:残存していた石囲炉跡下段に対応)
 炉を作り替えたか
 ↑
 2400SI-2 (円形:炉跡の掘り方土坑が残存)
 ↑
 2338SI (隅丸方形:掘り方の残存、埋められた埋土)
 ↑
 2402SI (隅丸方形:掘り方の残存わずか)

2220SK 大型石棒(立位)
 最上層で検出された
 礫群(1194SS)に伴うか

2258SK
 袋状土坑(後期初頭の遺物を多く含む)

1302SK
 土坑(柱状礫・台石が埋納状態で出土)

袋状土坑(後期初頭の遺物を多く含む)
 812SK・813SK

3307SK
 袋状土坑(遺物を多く含む)

2403SB 掘立柱建物跡
 2301SK 土器片埋納ピット

大型石棒
 不明石製品

945SK
 土器埋設遺構
 (後期初頭)

943Z 土器棺墓
 (晩期中葉)

包含層形成(晩期)
 土器溜まり(中期)

大型の打製石斧

包含層・遺構形成(晩期)
 ↑
 包含層形成(後期:斜面上からの廃棄か?)
 ↑
 崖際に土器溜まり(中期:大型破片出土)

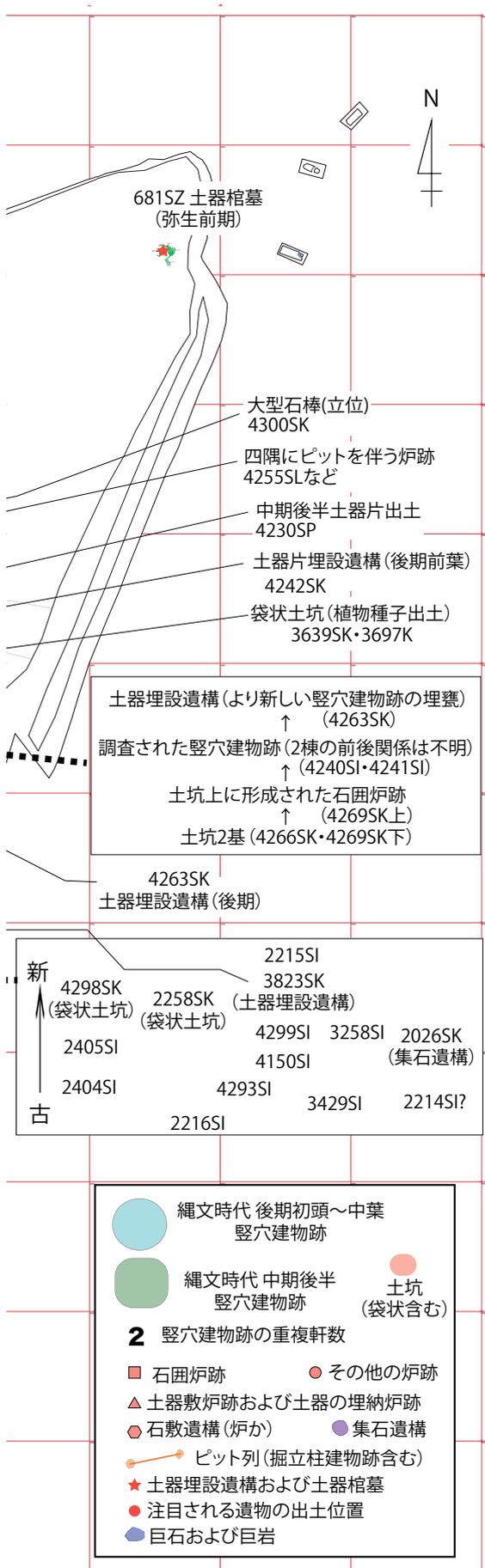
4059SK
 石敷遺構(炉か)

3893SI
 中期後半竪穴建物跡

4228SB
 掘立柱建物跡になるか

1マス10m

図3 遺構全体図 (1:500)



ここで見つかった主な遺構は、以下の通りです。

- ◆ 縄文時代中期後半(今から約5,000年前)
 - ：^{たてあな}竪穴建物跡 1棟、柱列1(ピット2基)
- ◆ 縄文時代後期(後期初頭～中葉)
 - ：今から約4,400年～3,800年前が中心
 - ：竪穴建物跡31棟、竪穴建物跡との関係が不明の炉跡5基、貯蔵穴などの土坑14基、土器埋設遺構5基(炉の中に埋納されたものを除く)、集石遺構10基、柱列2(ピット2基と3基)、掘立柱建物跡1軒、大型石棒および立石を伴うピット4基、礫群1、その他土坑および柱穴多数
- ◆ 縄文時代晚期前葉～中葉(今から約3,200年～3,000年前)
 - ：石敷遺構(炉の可能性もあり)2基、土器棺墓1基
- ▼ 弥生時代前期(今から約2,500年前)：土器棺墓1基
- 古代(今から約1,000年前)：土坑1基



調査区遠景(西より)

遺構の分布

段丘の中心、「笹平岩」を挟んだ東西、および北側には、^{たてあな} 竪穴建物跡群と土坑群が集中しています。これらの遺構が展開する範囲は、Ba区南端・Bb区とBc区の全面・Cb区の南東側を除いた区域・Cc区の北端で、地盤の高い場所に当たります。

【^{たてあな} 竪穴建物跡】

竪穴建物跡の^{ろあと} 炉跡は、^{いしがこいろ} 石囲炉跡や^{いしじきろ} 石敷炉跡が多く、^{まいのう} 土器が埋納された炉跡なども見つかりました。^{かくらん} 攪乱などの影響で炉跡とピット列しか見つからない場合もあり、時期の分かる遺物が遺構内から出土しないこともあります。周囲の状況から、多くのものは縄文時代後期初頭から中葉のもの（今から約4,400年～3,800年前）と考えられます。竪穴建物跡の平面形は、^{すみまるほうけい} 隅丸方形が多く、^{えんけい} 円形もありました。竪穴建物跡と各遺構の詳細な変遷については図3にまとめておきました。ここでは、竪穴建物跡の中でも特徴的なものについてのみ記しておきます。

Cb区3893SIは、縄文時代中期後半（今から約5,000年前頃）の、笹平遺跡で最も古い段階の竪穴建物跡です。長辺4.8m・短辺4.6mの隅丸方形プランで、約50cmの深さを確認しました。^{まいど} 埋土中からは多くの土器片・^{どき} 石器が出土しました。^{せつき} 床面では、中央に^{いしがこいろ} 石囲炉跡、^{よすみ しゅちゆうけつ} 四隅に支柱穴跡、竪穴の壁ぎわには^{しゅうこう} 周溝が見つかりまし



Cb区 縄文時代中期後半竪穴建物跡
3893SI 床面検出（南より）



Cb区 縄文時代中期後半竪穴建物跡
3893SI（北より）



Cb区 縄文時代後期？竪穴建物跡
3947SI（北より）



Cb区 縄文時代後期？竪穴建物跡
石囲炉跡 3948SL（北東より）



Cb区 縄文時代後期？竪穴建物跡
4141SI (南より)



Cb区 縄文時代後期？竪穴建物跡
4141SI 石囲炉跡 36288SL (北西より)



Bb区 縄文時代後期竪穴建物跡
2216SI (東より)



Bb区 縄文時代後期竪穴建物跡
2216SI 炉跡 (2319SL) 遺物出土状況 (北より)



Cb区 縄文時代後期 竪穴建物跡
4240SI (南より)



Cb区 縄文時代後期竪穴建物跡
4240SI 石囲炉跡 4152SL (北より)



Cb区 縄文時代後期竪穴炉跡
4269SK 上層 (西より)



Cb区 縄文時代後期竪穴建物跡
3429SI 土器埋設炉跡 3294SL (北より)

た。石囲炉跡は中央よりやや東側にあり、大きさは一辺が1.2m四方、約40cmの深さがあり、上下2段階で使用の跡が確認されました。この西側には入り口部の痕跡かもしれない、巨礫を含む浅い凹みが見つっています。^{しゅちゆうけつ} 支柱穴は径60cm・深さ50cmほどの大きさです。壁の周溝には小さなピットが一定間隔で見つかったことから、ここに細い柱が立てられていたと考えられます。

Cb区3947SIは、径3.8mほどのやや不整な円形を呈する竪穴建物跡で、20cmの深さが確認されました。中央には7基ほどの柱穴があり、この他に壁の周囲に沿って壁柱列^{へきちゆうれつ}が見つかりました。中央には一辺50cm四方・深さ25cmの大きさの石囲炉跡があります。この石囲炉跡は、薄い板状の石4枚が方形に立てられたもので、Cb区4141SIの石囲炉跡3628SLも同様の構造です。

Ba区にほど近いBb区とCb区の境では、^{ふくろじょうどこう} 袋状土坑・^{どきまいせつたいこう} 土器埋設遺構・^{しゅうせきいこう} 集石遺構のほか、計10棟の竪穴建物跡が重複していました。これらの中で最も古いBb区2216SIは、一辺が5mほどの隅丸方形プランで約20cmの深さがありました。床の中央には炉跡、四隅には支柱穴、壁際下には周溝がありました。炉跡は、長軸130cm・短軸100cmのいびつな楕円形の凹みの内に角礫^{かくれき}が置かれたもので、中から後期初頭(今から約4,400年前)の土器片が多数出土しました。一方、Cb区4293SI・4299SIはほぼ同じ場所に重複する竪穴建物跡です。それぞれの石囲炉跡(3320SL・3303SL)は、3320SLの上に3303SLが重複しており、3303SLの石囲炉の一部が3320SLの石囲炉としてそのまま利用されていました。Cb区3429SIと3258SIも、それぞれの炉跡(4295SL・3294SL)が上下に重なっていました。また、3294SLでは深鉢^{ふかぼち}の胴部二個体が入れ子状に埋められていました。

Cb区北東端では、径1mを測る大型の土坑(4266SK・4269SK)と石囲炉跡をもつ竪穴建物(4240SI・4241SI)とが重なっていました。大型の土坑4269SKは、掘り込みの中に礫が敷かれ、^{しょうど} 焼土と^{たんかぶつ} 炭化物が出土することから、炉跡が重なっ



Cb区 縄文時代後期炉跡
4255SL (南より)



Cb区 縄文時代後期？掘立柱建物跡
2403SB (東より)

ていたようです。これら土坑の上に作られた4240SIの炉跡4152SLは、長軸が1mほどの石囲炉跡のようで、落ち込みの縁辺には炉石の痕跡が見つかりました。

Ba区788SIは南北方向にややずれて、2棟が重なっていました。隅丸方形あるいは円形プランで、一部で壁の柱列が見つっています。炉跡はそれぞれに1基ずつあり、その内の1基は土器敷炉跡でした。Ba区790SIは、土層断面を観察すると3棟の竪穴建物が重なっていたようです。炉跡は石囲炉で、炉内に土器敷きと炉体土器が認められました。炉体土器は上下に高さが異なる形で3つ見つかり、炉の作り替えや建物全体が建て直されたようです。石囲炉に使用された礫には、径40cmにも及ぶ大型石棒片もありました。土器敷きに使用された土器片には後期中葉(今から約3,800年前)の深鉢片もありました。

Bb区西端でも竪穴建物跡が4棟重複していました。最も古い2402SIと次の2338SIは隅丸方形プラン、次の段階の2400SIは円形プラン、最も新しい1406SIはいびつな円形でした。すべてに石囲炉があったようですが、2400SIの炉跡と1406SIの炉跡とは重ねて築かれていました(2346SLの上下)。

このように、竪穴建物は繰り返し同じ場所が利用されていたようです。

ほったてばしらたても 【掘立柱建物跡】

Bb区2403SBは、梁間2.6mほどの1間×2間の掘立柱建物跡です。柱穴の直径は50cm弱、深さも50cmほどです。Cb区4228SBは、梁間5mほどの掘立柱建物跡かもしれませんが、すべての柱穴は確認できませんでした。Cb区北西端では、径1mほどのピット2基の柱列が見つかりました(4302SA)。その柱穴(4230SP)からは縄文時代中期後半(今から約5,000年前)の土器片がまとまって出土しました。

ふくろじょうどこう ちょぞうけつ 【袋状土坑(貯蔵穴)】

穴の下半が大きく広がる(袋状)土坑が、Ba区の山側と川側、Bb区とCb区の境付近、およびCb区北西端などの特定の場所でまとまって見つっています。



Cb区 縄文時代中期後半柱列 ピット
4230SP 土層断面(南より)



Cb区 縄文時代中期後半柱列 ピット
4230SP 遺物出土状況(南より)

Ba区では、川側の812SKや813SKで後期初頭(今から約4,400年前)の遺物が集中して出土しました。特に813SKでは、土坑底からは鉢一個体が横倒しになった状態で見つかりました。Bb区とCb区の境界付近でも、2258SKと4298SKから多量の土器が出土し、特に2258SKの土器には後期初頭(今から約4,400年前)のJ字文様がはっきり残されていました。一方、Cb区北西端の3639SKおよび3697SKでは、埋土中で長軸1cm程度の植物種子しよくぶつしゅしが出土しました。

【土器埋設遺構どきまいせつごう】

炉体土器以外の土器埋設遺構は5基見つかりました。これらには、底部に小さな孔をあけたものや、わざと底部を欠いたものが多いようです。Cb区北東部で見つかった4263SKは4240SIの南端にあり、4240SIあるいはその上に存在していた竪穴建物の埋甕であったかもしれません。Bc区945SKは縄文時代後期初頭(今から約4,400年前)の土器埋設遺構です。上位に胴部下半までの深鉢土器が、下位に位置を違えて同じ個体の底部が出土しました。

またさらに、Cb区4242SKのように、縄文時代後期前葉(今から約4,000年前)の深鉢土器ふかぼち1個体分の破片を納めた土坑も見つかっています。



Cb区 縄文時代後期袋状土坑(貯蔵穴)
3697SK 土層断面(東より)



Cb区 縄文時代後期袋状土坑(貯蔵穴)
3697SK 炭化種子出土状況



Bb区 縄文時代後期袋状土坑(貯蔵穴)
2258SK 遺物出土状況(北より)



Cb区 縄文時代後期袋状土坑(貯蔵穴)
3307SK 遺物出土状況(北より)

【集石遺構】

土坑内に礫が集められている集石遺構は10基見つかりました。礫が土坑の落ち込みに投棄されたものや、Bb区2026SKのように被熱^{ひねつ}した礫が立てられたもの、さらにはBb区1238SKのように塚状^{つかじょう}に重ねられたものもあります。集石遺構は、掘立柱建物跡2403SBの南西部など特定の範囲に集中しているようです。

【大型石棒・立石】

大型石棒および柱状^{ちゅうじょうれき}礫が、真っ直ぐに立てられた遺構が4基見つかりました。土層断面を確認したところ、いずれも柱穴の中位から上位に埋設されており、柱穴下から据えられているものはありませんでした(つまり柱穴がある程度埋められた後に設置されたということです)。

大型石棒が立てられていたBb区2220SKは、上面で調査された集石1194SS・1195SSの南端に当たり、これらに関連するかもしれません。この石棒は先端側^たが敲かれ切断されてから立てられたようです。

Cb区の4300SKは炉跡4255SLの脇に据えられた立石です。この近辺では炉跡と思われる浅い落ち込みの隅にピット状の落ち込みが、セットになっていくつも見つかっています。これらの炉跡脇にも立石があった可能性があります。

【土器棺墓】

Bc区943SZは、縄文時代晩期中葉(今から約3,000年前)の土器棺墓^{かんみ}です。棺身は立位に埋設された深鉢で、口縁側には別個体の深鉢口縁部が上下逆に置かれていました。上の土器は口縁から10cm程度しか残存していませんが、後世の削平を考慮すると、少なくとも胴部の中位まではあったかもしれません。棺内には、深鉢底部が二個体、まっすぐ立てられた状態で上下にありました。そのうちより下から出土したものは縄文時代後期(今から約4,000年前)の深鉢底部でした。何かの意図をもって土器棺埋設時に入れられたようです。



Cb区 縄文時代後期土器埋設遺構
4129SK 土層断面 (東より)



Cb区 縄文時代後期土器片埋設遺構 4242SK (東より)



Bb区 縄文時代後期？石棒埋設土坑
2220SK 土層断面（南より）



Bc区 縄文時代後期？柱状礫埋設土坑
2278SK 土層断面（南より）



Cb区
縄文時代後期土器埋設遺構
4263SK 土層断面（東より）



Bb区 縄文時代後期？柱状礫など埋納土坑
1302SK（西より）



Bb区 縄文時代後期集石遺構
1238SK（西より）

Ba区681SZ は、^{やよいじだい}弥生時代前期（今から約2,500年前頃）の土器棺墓です。棺身は^{おうい}横位埋設した大型^{つぼ}壺で、半分打ち欠かれた口縁部側に、深鉢の大型破片で包み込むような蓋がされていました。棺身の壺には埋められた際の胴部上面に小さな^{あな}孔があげられています。壺内部には、埋設時の下側半分に^{たんかぶつ}炭化物が濃密に付着していました。この炭化物は、^{あんていどういたいひぶんせき}安定同位体比分析の結果、C3植物といわれる光合成を行う植物の中で、特に^{けんかるい}ドングリなど堅果類に近い値を示しました。埋められた坑の底面には礫が置かれてあり、棺を埋設した時に安定させたようです。

【出土遺物】

土器には、縄文時代早期・中期・後期・晩期、そして弥生時代前期のもの（今から約8,000年～2,500年前頃）があります。その中でも後期初頭から晩期前半（今から約4,400年～3,000年前頃）の遺物が多く、器種には、^{ふかぼち}深鉢・^{あさぼち}浅鉢・^{ちゅうこうどき}注口土器があります。晩期では東北地域の^{おおほらけい}大洞系土器や関西地域の^{かしはらもんよう}橿原文様の浅鉢などが確認されました。土製品は少ないものの、^{どぐう}土偶の胴部片や手足部分が出土しています。

石器には、^{せきぞく}石鏃・^{いしきり}石錐・スクレイパー・^{だせいせきふ}打製石斧・^{じんぎ}刃器・^{れつき}礫器・^{ませいせきふ}磨製石斧・^{うちかき}打欠石錘・^{せきすい}切目石錘・^{きりめせきすい}有溝石錘・^{ゆうこうせきすい}磨石敲石類・^{すりいたたぎいし}石皿台石類・^{いしごらだいいし}石鋸（^{いしのこ}擦切具）^{すりきりぐ}が出土し

ています。今回の調査では、石鏃などのこがたはくへんせつき小型剥片石器類が少なく、出土地点も表層に集中しているようでした。大型のだせいせつき打製石器には安山岩で作られた打製石斧や礫器などの他に、安山岩のげんせき原石・せつかく石核・はくへん剥片が遺跡全体で多量に見つっています。磨製石斧については、製作途中のものも出土しています。いわゆる石錘としては有溝石錘が10点以上とまとまって出土しています。今回の調査で、ぎょうかいしつざん凝灰質砂岩製の擦切具が出土しました。愛知県下では、ま たいら豊田市馬の平遺跡で1点採集されており、本例が県内2例目になります。

また、石製品には、おおがたせきぼう大型石棒のほかせきぼうせきとう石棒石刀類・せつかん石冠・がんぐうがんばん岩偶岩版類・どっこいし独鈷石があり、なかでもせんごくれき線刻礫を含む岩偶岩版類は今回の調査で6点確認されました。奥三河郷土館に所蔵されている2点を合わせると計8点となり、1遺跡で出土した岩偶岩版類の数は県内最多です。

まとめ

今回、笹平遺跡(集落)のすべてを調査したことにより、巨岩「笹平岩」を中心に、地形に沿って展開した縄文時代の集落のあり方を解明する良好な資料を得ることができました。遺跡の規模や内容から、愛知県東部山間部の縄文時代後晩期を代表する遺跡の調査事例として、今後の分析が待たれるところです。



笹平遺跡出土遺物（大型石棒・石棒石刀類・独鈷石・石冠・岩偶岩版類）



Bc 区縄文時代晩期 土器棺墓
943SZ (南より)



Ba 区 弥生時代前期土器棺墓
681SZ (西より)



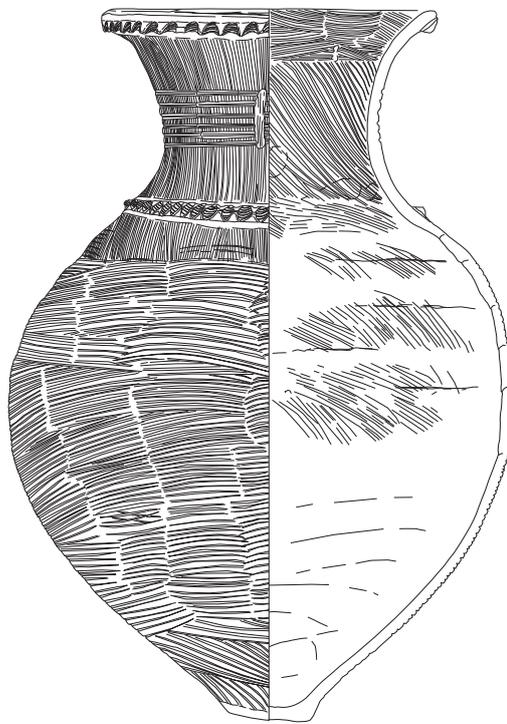
← Ba 区 681SZ
棺身使用土器 (壺)
内面



Ba 区 弥生時代前期土器棺墓
681SZ (南より)

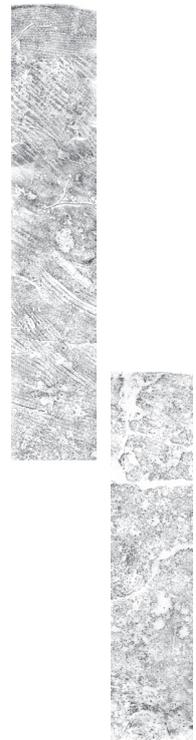


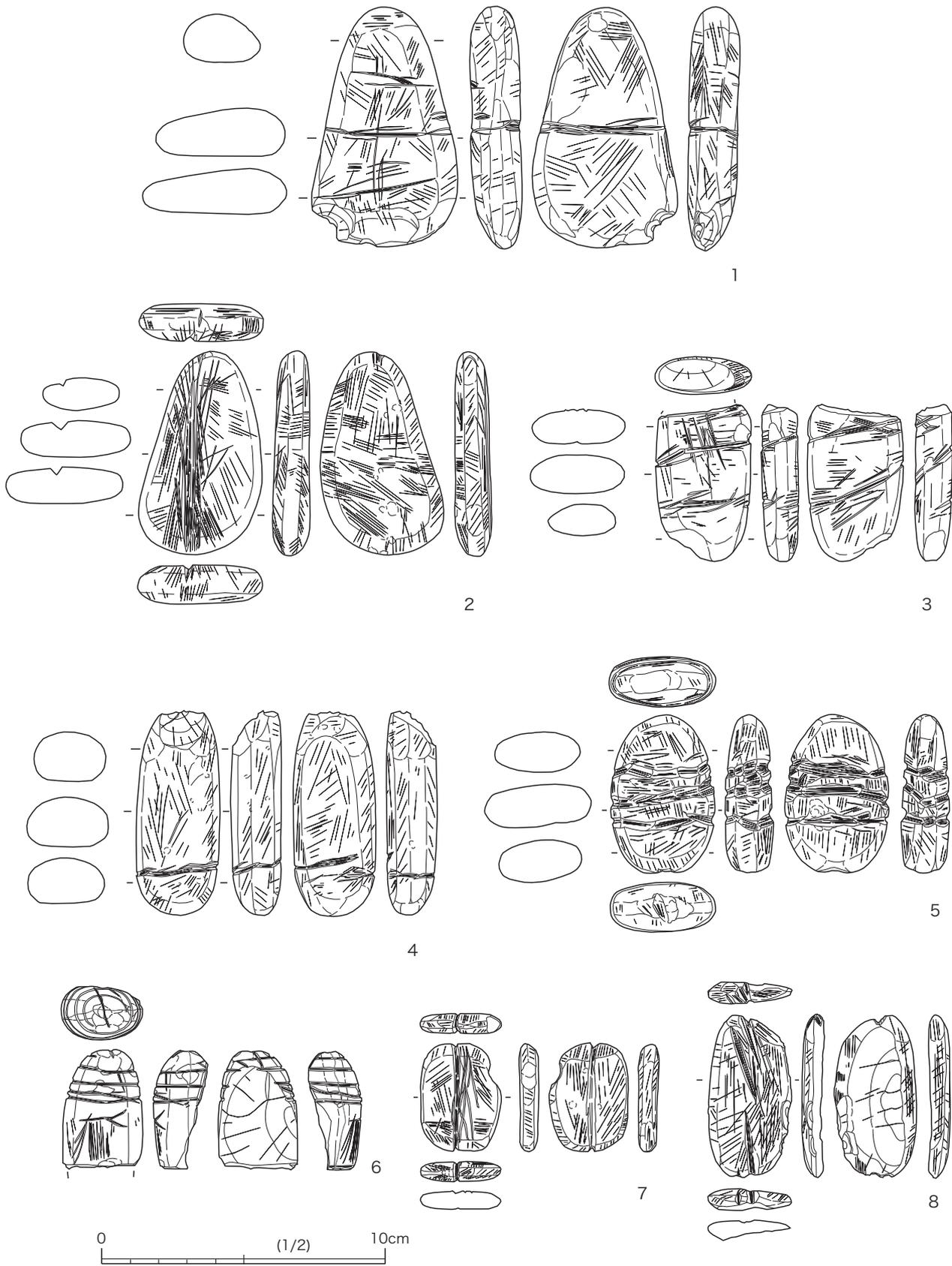
↑ 口縁部と胴部に打
ち欠きがあります



0 (1/6) 20cm

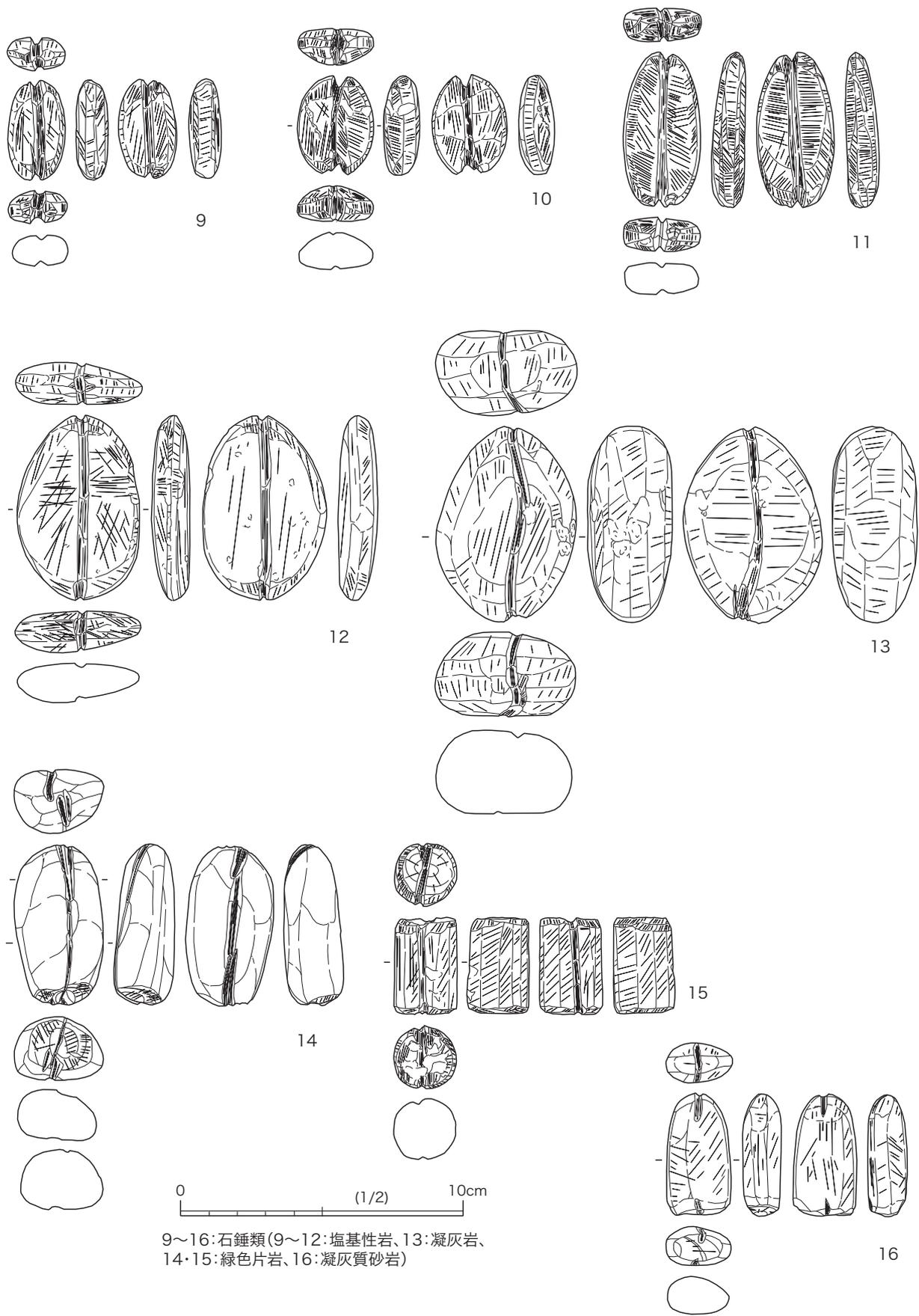
Ba 区 681SZ 棺身使用土器





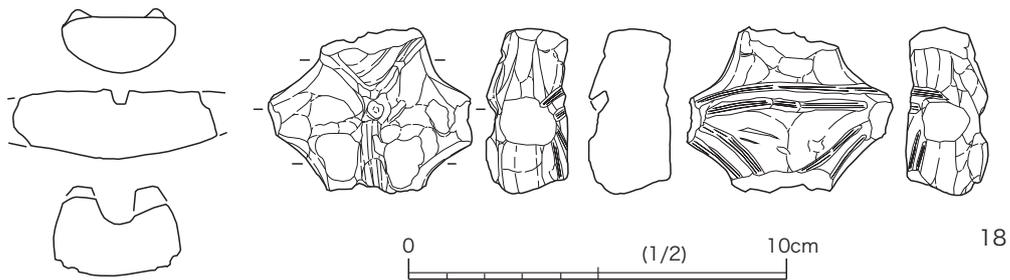
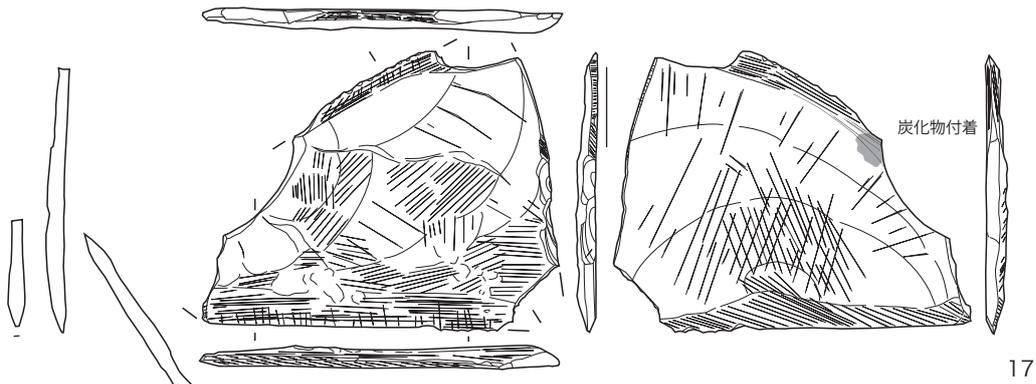
1~6: 岩偶岩版類(泥質凝灰岩)、
7·8: 線刻磔?(7: 泥質凝灰岩、8: 凝灰質砂岩)

笹平遺跡出土石器 (1)

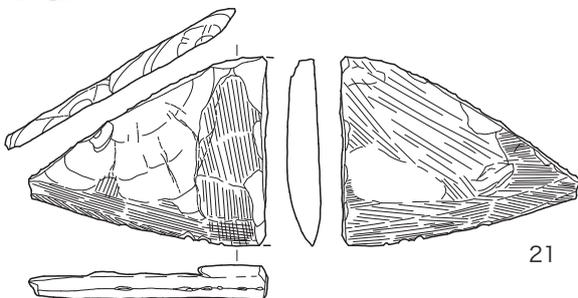


9~16:石錘類(9~12:塩基性岩、13:凝灰岩、
14・15:緑色片岩、16:凝灰質砂岩)

笹平遺跡出土石器(2)



17:磨切具(凝灰質砂岩)、18:土偶



19・20:岩偶岩版類、21・22:磨切具(砂岩か)

20:笹平遺跡【奥三河郷土館所蔵】

21:豊田市馬ノ平遺跡【奥三河郷土館所蔵】

22:静岡県浜松市天竜区佐久間遺跡【大場磐雄 1932「新たに発見した石器時代敷石住居跡」『上代文化』10 28~41 上代文化研究会より】

笹平遺跡出土石器 (3)



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

電話 調査課 (0567) 67-4163

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

HP <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun